

第1学年1組国語科学習指導案

日 時 平成27年11月25日

場 所 1年1組教室

指導者 担任
司書教諭

- 1 単元名 のりものカードをつくろう (教材: 「いろいろなふね」東京書籍)
- 2 単元のねらい
 - ・乗り物に興味を持って説明文を読んだり、好きな乗り物について調べて「のりものカード」を作ろうとしたりしている。【国語への関心・意欲・態度】
 - ・それぞれの乗り物にどんな役目があってどんなつくりになっており、どんなことができるかを、大事な言葉を見つけながら読んでいる。【読む力】
- 3 本単元でつきたい情報活用能力
 - ・観点を知り、必要なところを抜き書きする。(情報の取り出し方・情報の整理)

4 単元について

- 本単元は、学習指導要領の指導事項C読む(1)「時間的な順序や事柄の順序などを考えながら内容の大体を読むこと」、エ「文章の中の大事な言葉や文を書き抜くこと。」をねらいとしている。本教材は、特徴的な機能を持った四種類の船を例として取り上げ、役目や構造、装備などを写真とともに紹介している。それらを正しく読み取る学習を進め、そこで学んだことを生かして、他の乗り物について自分で調べる学習へとつなげることができる説明文である。

本文は、話題提示の段落(はじめ)、4つの例示(なか)、まとめの段落(おわり)というわかりやすい文章構成になっている。それぞれの例示が同じ文章構成、同じ文型で説明されており、叙述に即して内容を正確にとらえるのに適している。

この時期の児童は、物語だけでなく、科学的な絵本や読み物など、説明的な文章にも読書の広がりを見せ始める。いろいろな乗り物について本を読んで調べる活動を通して、読む目的を意識して本や文章を選び、内容を正確にとらえる力をつけるのに適した教材である。

1学期の説明文「どうやってみをまもるのかな」では、挿絵と文章を結びつけながら、書いてあることを正しく読む学習をした。本単元では、文章を読む力に加え、情報を収集する力と活用する力を育てる初めて学習であるので、図書資料を読むための、基本的な事柄を丁寧に扱っていく必要があると感じている。

- 本単元では「のりものカードをつくろう」という単元のめあてを設定することで、教材文を読み取ったり、乗り物について書かれた本を読んで、大事なことを読み取ったりする学習への意欲がもてるようにする。

第1次では、乗り物について知っていることを伝え合ったり、司書教諭から子どもたちにのりものカードを提示してもらったりすることで、本単元への興味を持たせたい。そして、しっかりと「いろいろなふね」を学習して、自分も最後には「のりものカード」を作りたいという意欲や見通しを持たせたいと考える。

第2次では、まず、第1次で司書教諭が紹介した「のりものカード」を使い、カードに書かれている3つのポイントについて話し合う。そこで、乗り物の役目(どんな仕事をするか)、つくり(そのために何が備わっているか)、できること(②のつくりがあるとどのようなことができるか)の3点について書かれていることに気づかせたい。そして、その3つのポイントを基にして、4種類の船について読み取っていく。「のりものカード」は役目を青、つくりを赤、工夫を緑に色分けして記入し、視覚的に分かりやすくしておく。その色分けは第3次で「のりものカード」を作る際にも

役立てられるようにしたい。

第3次では、本の中から乗り物一つを選び、自分の「のりものカード」を作成する。全員が自分の資料をもてるように、学校司書と協力して本の準備をしておく。授業のはじめには、司書教諭が乗り物の本の読み方について指導し、子どもがこれまでに学習した3つのポイントを意識しながら読み進められるようにしたい。さらに、単元の終わりには自分たちが作ったカードを読み合う学習を行う。友だちの発表を聞きながら、良かったところや、初めて知ったことなどの感想を交流させたい。

本時は、実際にのりものについて書かれた本を読み、「やく目」「つくり」「できること」を読み取っていく。その際に、大事な言葉を見つけたら、これまでのカード例で活用した色の付箋を貼ることによって、情報の収集していくことを、司書教諭から説明をする。その際には、拡大した資料を用意し視覚的にも分かりやすくしたい。この作業は個別の支援が必要なため、司書教諭、学校司書と連携を取りながら児童の活動を助けていきたい。また、速くできた子は挿絵を描いたり、次の乗り物について考えたりして、意欲が途切れないうように配慮していきたい。

5 単元の評価基準

国語への関心・意欲・態度	読む力
乗り物に興味を持って説明文を読んだり、好きな乗り物について調べたりしようとし、「のりものカード」を進んで作ろうとしている。	それぞれの乗り物の「役目」「つくり」「できること」を表す大事な言葉を見つけながら読んでいる。

6 単元の指導計画と支援と評価

次	時	主な活動	支援 (○担任☆司書教諭◇司書) 【資料】	評価基準 (方法)
1	1	○単元のめあて「のりものカードをつくろう」を知り、学習の流れを確かめる。	○のりものの写真を見せたり、のりものについて知っていることを聞いたりしながら、本単元への興味が高まるようにする。 ☆「のりものカード」を子どもに提示することで、本単元への興味が高まるようにする。	【関】のりものについて興味を持ち、「のりものカード」作りのために学ぼうとしている。(発言)
	2	○教材文を読んで初発の感想を交流する。 ○形式段落に番号を打つ。 ○漢字や語句の学習をする。	○分かったこと、もっと知りたいこと、知っていることなどを自由に話し合い、いろいろな反応を引き出す。	
2	3	○全文を読み、「はじめ」「なか」「おわり」の3つのまとまりに分けてとらえ、「なか」は4つの船について説明されていることを確認する。 ○初めに提示したのりものカードから、教材文を読み取るための3つの視点を話し合う。	○全体を3つに分け、「なか」の部分の内容がとらえやすいように、挿絵と繋げる。 ○読み取りの視点となる「やく目」「つくり」「できること」を理解しやすいように色分けする。	【読】全体を3つに分けてとらえ、何について書かれた文章か読み取っている。(発言)
	4	○「きゃくせん」はどんなことを	○書かれている事柄の順序にそつ	

	<p>する船か、そのためにどのような工夫がしてあるかを読み取る。</p> <p>5 ○「フェリーボート」について読み取る。</p> <p>6 ○「ぎょせん」について読み取る。</p> <p>7 ○「しょうぼうてい」について読み取る。</p>	<p>て読み取れるように「やく目」「つくり」「できること」の視点に沿ってまとめ、「のりものカード」の作り方へつなげる。</p> <p>○内容の理解を深めるために、視点ごとに色分けしたワークシートを用意する。</p> <p>○特徴的な表現について理解を深めるために、挿絵や写真を利用する。</p> <p>○内容の理解を深めるために、視点に分けて音読する。</p>	<p>役目」「つくり」「できること」について、大事な言葉を見つけながら読み取っている。(ワークシート・発言)</p>
	<p>8 ○じぶんがカードを作りたいのりものを決め、それについて書かれた本を読む。</p> <p>9 ○のりものカードを作るために資料を調べる。(本時)</p> <p>10 ○のりものカードを作成する。</p> <p>11 ○できたカードを読み合う。</p>	<p>☆のりものを決め、調べることができるように、本の探し方や、ページの見つけ方を指導する。 ◇資料となる図書を準備し、資料の見方を助言する。</p> <p>○3つのポイントを意識しながら読み取れるように、確認し、色別の付箋を用意する。 ☆どのように資料を読み取っていけばいいか分かるように、見本を基に説明する。</p> <p>○☆個別に支援する。 ○友だちの説明を聞いた後、ペアで説明したり、教師が聞いたりして多くの子が話す機会を持てるようにする。</p> <p>○小グループでカードを読み合い感想の交流を行う。</p>	<p>【関】自分の調べたいのりものを選び進んでのりものカードを作ろうとしている。(活動の様子)</p> <p>【読】役目、つくり、できることを表す大事な言葉を見つけながら読もうとしている。(活動の様子、カードの内容)</p> <p>【読】3つの視点にまとめながらカードに記入している。(カードの内容)</p> <p>【関】友だちの発表を聞きながらよいところを見つけようとしている。(活動の様子)</p>

7 本時の学習

(1) 目標

- ・本を読んで、乗り物の「やく目」「つくり」「できること」を見つけることができる。

(2) 展開

学習内容と予想される 児童の意識や活動	教師の指導と手立て	評価
<p>1, 本児のめあてを確かめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content;"> <p>本をよんでしらべて「のりものカード」をつくろう。</p> </div> <p>2, カードの例をもとに、どんなことを調べるか確認する。</p> <p>3, 司書教諭の話聞き、調べ方について学習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・色の説明。 ・付箋の活用。 <p>4, 自分が調べたい乗り物について本を読んで調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大事な言葉に付箋を貼りながら調べていく。 <p>5, 本児の学習の振り返りをする。</p>	<p>学習計画表を提示し、前時までの学習を振り返ったり、本児の学習の見通しがもてたりできるようにする。</p> <p>・「やくめ」「つくり」「できること」を調べることを確認するために「いろいろなふね」の学習を想起させる。</p> <p>☆拡大した資料を提示し、実際に色分けした付箋を貼りながら説明する。</p> <p>☆◇あらかじめ調べたい乗り物や、本を把握し、一人一人が資料をもてるように準備する。</p> <p>☆児童の状況に応じて、カードに記入したり、複数の乗り物を調べたりできるようにしておく。</p> <p>できたかどうかだけでなく、難しかったところ、良い方法などもあれば発表し共有することで今後の学習に生かせるようにする。</p>	<p>【読】「役目」「つくり」「できること」を表す大事な言葉を見つけながら読んでいく。(活動の様子、カードの内容)</p>

(3) 本時の評価の具体例

評価基準	十分満足できると判断される児童の姿の具体例	おおむね満足できると判断される児童の姿の具体例	おおむね満足できると判断されない児童への手立て
読むこと	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が調べたい乗り物について大事な言葉を見つけ適切に選び出している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が調べたい乗り物について「やく目」「つくり」「できること」に関する大事な言葉を見つけ、それを含む文章に付箋を貼っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大事な言葉が見つけれられるように、ゆっくりと読み直したり、書いてあることを確認したりする。